建築的解釈のすすめ

～本・映像・芸術作品から読みとる建築の手がかり～

二〇二七　清水 千夏子

はじめに

きっかけ

研究のきっかけは、就職活動で本の企画書を作成し、建築系の出版社への就職が決まったことである。
4月上旬から6月上旬までの約2ヶ月間で、本のテーマ、著者、目次、販促案など全てを一貫して考え、一つの企画書を完成させていく過程で、どうすれば多くの人に興味を持ってもらえるのかや、読み手に伝えたい情報を効果的に伝えるための構成や言葉選びについて深く考える機会となった。
また、企画書を作成する中で、参考のために多くの建築本に目を通した。その際、テーマやターゲットなどによって本の構成、雰囲気、体裁などがガラリと変わり、唯一無二の一冊が出来上がることに感動し、本が出来上がるまでのプロセスとメソッドに興味を持った。

「建築学生にもっと本を読んでもらいたい」

企画書づくりを通じて、建築本の魅力や奥深さを再確認したと同時に、日々建築を学び、探求している学生にこそ、もっと本を活用してもらいたいと感じた。
また、現在日本の出版業界は、不況に立たされている。出版科学研究所の調査によると、日本の出版業界の売り上げは1996年をピークに下降の一途をたどっており、今後も本の需要は減少していくとみられる。そこで、本の文化を守っていくためには、人々の本に対する価値を上げることが必要だと考えた。
本研究では、主に建築学生の日々の学びに役立つような本を作成することで、建築学生にとっての本に対する価値の向上をねらうこととした。

建築学生にとってタメになる本とは

インターネットで「建築学生におすすめの本」、「建築がもっと面白くなる本」と検索して出てくるのは、たくさんの名建築の写真が載った建築雑誌や、設計の基礎を学べる設計入門書など、どれも直接的に建築をテーマとしたものばかりである。もちろん、建築初心者である学生にとって、既存の名建築についての知識を得たり、設計の基礎を学ぶことはとても大切なことである。
一方で、建築とは直接的に関係がない分野だからこそ学べることもあるはず。建築を直接的にテーマとしていないからこそ、リラックスした状態で新しい情報を吸収できたり、より自然な形で自らの価値観や視点、考え方をアップデートできるのではないか。本研究では、そんな〝直接的に建築をテーマとしていない〟文学作品や映像作品、芸術作品等に注目し、主に建築学生の学びに役立つような、建築の手がかりを拾集する。

1章　誰かの人生や日常を覗く

“自分とは違う価値観をもつ他人の日常や暮らしぶりを観察すると、
生活を営む場をつくる際のヒントを得られることがある。

世の中には様々な考え方や生き方が存在し、それらを理解し、尊重しようとすることは、
暮らしのそばにあるものをデザインする上で、必要不可欠なことだ。

自分が生きていく中では決して交わることのない誰かが、
日々どんなことを考えているのか。何を大切にしているのか。

それらに想いを巡らす体験を重ねることで、ものづくりをする上で大切な
“使い手の生活を推し量る” 際に役立つ 糧 を得ることができるだろう。”

『食べたくなる本』《本》

推薦人：建築実務者（建築設計）

著者：三浦哲哉
出版社：みすず書房
出版年：2019 年
ジャンル：評論

出典：https://www.msz.co.jp/book/detail/08781/

推薦人からの推薦文
人間の生活について考える時の知見とヒントをくれた。

『他なる映画と』《本》

推薦人：建築実務者（建築設計）

著者：濱口竜介
出版社：インスクリプト
出版年：2024 年
ジャンル：映画論

出典：https://inscript.co.jp/b1/978-4-86784-006-1

推薦人からの推薦文
映画監督の空間の捉え方が参考になった。

『セッション』《映画》

推薦人：建築実務者 兼 教員（建築設計・建築再生・建築意匠）

監督・脚本デイミアン・チャゼル
製作：2014 年
公開年：2015 年
ジャンル：音楽ドラマ

出典：http://session.gaga.ne.jp

推薦人からの推薦文
ジャスの師匠と弟子の話。師匠はすごく厳しいのだが、それは本気でセッションできる人を求めていたのが理由。妙に共感できた。

2章 「考え方」について考える

“これまで当たり前だと思っていたことを、自ら別の視点で捉え直すことは難しい。
この章では、建築を専門としていない人たちが表した身近な物事に対する考え方や建築以外の分野における思考法、
そして「考えること」そのものについて、様々なアプローチから「考え方」について考えることを手助けしてくれるものを拾集した。

哲学書を読むことで、問題の前提や本質を探る際の切り口を増やしたり、物事の捉え方の幅を広げる手がかりを見つけることができる。
芸術・音楽作品における構成や表現方法から、空間デザイン的な発想につなげることもできるだろう。

新しい考え方に気づくことで、建築・都市においてこれまで見えなかったことが見えてくるかもしれない。”

『思考の整理学』《本》

推薦人：建築実務者 兼 教員（建築設計・建築再生・建築意匠）

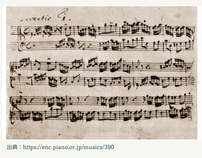
著者：外山 滋比古
出版社：筑摩書房
出版年：1986/4/24
ジャンル：学術エッセイ

出典：https://www.chikumashobo.co.jp/special/shikounoseirigaku/

推薦人からの推薦文
考える手順が分かる。考えはじめて少し寝かせて、また考えるというやり方がクリエイターにとって有効だと思った。あることについて少し考えて、それとは他のことをしていると、良い考えが浮かんだりすることがよくあります。

『インベンション』《音楽》

推薦人：建築実務者（建築設計）



概要
作曲家：バッハ
作曲年：1720 年
楽器編成：ピアノ独奏曲
ジャンル：曲集

出典：https://enc.piano.or.jp/musics/390

推薦人からの推薦文
二つのメロディを同時に進行させる時の構成のアイデアを学んだ

column1　建築を学ぶ上での本を読む必要性

建築を学ぶ上で、実際の現場を訪れることはとても重要な体験だが、それと同じくらい、本を読む経験にも価値があると考える。『建築の書物／都市の書物』五十嵐太郎＝編（INAX出版/1999 年）によると、「現場を重視するあまり、書物を読む経験を不当に貶めるのは間違っている。100回訪問しても気づかないことを1回の読書が教えるかもしれない。両者は補強しあい、互いに豊かな経験をもたらすのではないか。」とあり、現地でしか得られないものがあるように本を読むことでしか得られない学びもあることが理解できる。そして、本を読むことで、現場で得た経験をより豊かなものにすることができるのだ。

column2　どんな本を読むべきか

建築家の藤本壮介氏は、どんな本を読むべきかという問いに対して、「今読みたいと思う本を読むべきだ」と答えている。自分が持つ素朴な好奇心が出発点となって建築をつくっているから、意識せずとも自分が興味を持った本には、自分がつくる建築と通ずる部分があるらしい。そして、「読みたいと思う瞬間にしか、その本から得られることに反応することはできない」という。
このことから、自分の興味関心に任せ、読みたい時に読みたい本を読むことの大切さが窺える。

3章　空間の成り立ちをとらえる

『さまざまな空間』《本》

推薦人：研究者 兼 教員（都市と集落の様相論）

著者：ジョルジュ・ペレック
翻訳：塩塚秀一郎
出版社：水声社
出版年：2003 年

出典：http://www.suiseisha.net/system/book/print.cgi?4891764953

推薦人からの推薦文
空間の捉え方や記述の仕方の想像が広がる、叙述が美しい。直接役に立ったかはわからないけど。

『インターテスラー』《映画》

推薦人：自治体職員（建築）

脚本：クリストファー・ノーラン、ジョナサン・ノーラン
監督：クリストファー・ノーラン
配給：ワーナー・ブラザース映画
製作：2014 年
ジャンル：映画／SF・アドベンチャー

出典：https://warnerbros.co.jp/home_entertainment/detail.php?title_id=4366/

推薦人からの推薦文
ストーリーを力付くで空間化、映像化しているところ。

“物語を鑑賞していると、現実世界では出会うことのない空間を目にすることがある。
見る人を夢中にさせるその空間は、どのようにして出来上がっているのだろうか。

ファンタジー映画や喜劇、展覧会など、
各分野で実践されている空間構成・視線誘導の手法は、
建築・都市においても応用できると考えられる。

また、文学作品においては、空間そのものを捉え直すことを
促したり、文字情報のみで情景を鮮明に想起させるような
エッセイや小説などが多く存在する。

それらの空間の表現方法や空間哲学に触れることで、
様々な角度から空間の成り立ちについて捉え直すことができるはず。”

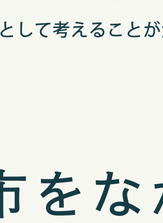
4章　歴史や文化に触れる

“様々な土地の歴史や文化に触れることで、建築や都市が、社会状況や文化、宗教など様々な要素が絡み合った時代的背景のなかで生まれ、移り変わっていることを理解できる。
そうして歴史や文化に想いをはせる体験は、建築・都市に関する知見を広げ、その土地の歴史や文化に根差した 場づくりへの意識を高めることにもつながる。
また、伝統的な技術や昔ながらの知恵に改めて目を向けることで新たな発見を得ることもある。
建築様式や工芸品など、長い間愛されてきたものの所以をたどると、ものづくりをする上で大切な考え方を身につけることもできるだろう。

この章で紹介する本や映画、展覧会では、様々な地域で確かに存在した歴史や文化を知ることができる。
それらは必ず何かの形で、現代の建築・都市につながっている。”

『手仕事の日本』《本》

推薦人：教員（建築史）



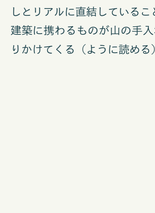
著者：柳 宗悦
出版社：岩波書店
出版年：1985 年
ジャンル：民藝案内書

出典：https://www.iwanami.co.jp/book/b246179.html

推薦人からの推薦文
ものづくりに対する姿勢や各地の文化に根差した文物に対する見方。民芸品と建築に置き換えるとわかりやすい。

『都市の論理』《本》

推薦人：建築実務者（建築設計・近代建築市）



著者：羽仁 五郎
出版社：勁草書房
出版年：1968 年
ジャンル：世界史（国際政治・経済）

出典：https://www.keisoshobo-books.com/shopdetail/0000000017844/

推薦人からの推薦文
イタリアの都市形成の歴史を民衆の視点から捉え直しているところ

『イッタラ展』《展覧会》

推薦人：建築学生（4 年生／文化財保存）

出典：https://hashi-pref.niigata.lg.jp/exhibition/iittala/

主催：新潟県立万代島美術館、UX 新潟テレビ 21、イッタラ展新潟実行委員会、
　　フィンランド・デザイン・ミュージアム、朝日新聞社
特別協力：Iittal
開催年：2023 年

推薦人からの推薦文
時代を超えて長く愛されるデザインの根幹を知ることができた。
“優れたデザインは日常の一部であるべき” という考え方は、
ものづくりをする上で心に留めておくべき大切なことだと感じた。

5章　社会や環境に近づく

“建築や都市をつくるには、社会状況や環境に対して敏感になる必要があるだろう。
社会や経済状況、自然環境について十分に理解していないと、建築が建った後、
周辺の地域にどのような影響を与えるのかを考えて設計することができないからだ。

建築が、地域に大きな影響を与えかねない存在だからこそ、社会や環境を身近な問題として捉え、建築と深くつながりのあるものとして考えることが大切だ。”

『神去なあなあ日常』《本》

推薦人：建築実務者 兼 教員／建築設計・建築意匠・建築計画

著者：三浦 しをん
出版社：徳間書店
出版年：2012 年
ジャンル：小説

出典：https://www.tokuma.jp/book/b503272.html

推薦人からの推薦文
具体的に山に入り、木を切ることが、現代においてもなお、暮らしとリアルに直結していることを愉快に具体的に描いており、我々建築に携わるものが山の手入れをすることの責任をユニークに語りかけてくる（ように読める）点。続編の「夜話」も非常に秀逸。

『父が娘に語る 美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい経済の話。』《本》

推薦人：自治体職員／建築

著者：ヤニス・バルファキス
翻訳：関美和
出版社：ダイヤモンド社
出版年：2019 年
ジャンル：経済学

https://www.diamond.co.jp/book/9784478105511.html

推薦人からの推薦文
経験価値の大事さが分かったような気がします。

6章　建築・都市をながめる

“俯瞰的に建築や都市をながめてみよう。

建築を専門としていない人が描く建築を見れば、
新たな発見を得られるかも知れない。
物語に登場する自分の知らない街の風景は、見ているだけで楽しいだろう。

建築を学ぼうとするのではなく、あくまで、作品を楽しむつもりで。

遠くからながめることで、建築や都市の新たな魅力に気付けたり、
知見が深まったり、アイデアの発想につながったりするはず。”

『EMILY IN PARIS』《映画》

推薦人：4 年生／建築

脚本：ダーレン・スター、
　　デボラ・コバケン・コーガン、
　　グラント・スロス
製作：ダーレン・スター
公開日：2020 年
ジャンル：コメディ

出典：https://media.netflix.com/ja/only-on-netflix/81037371

推薦人からの推薦文
ただの自分の好みではありますが、日本しか知らない自分にとって古い街、建物をそのまま使っているパリの様子が具体的に映されていて面白かった

『砂の器』《本》

推薦人：建築実務者／近代建築史

著者：松本 清張
出版社：新潮社
出版年：1973 年
ジャンル：小説（ミステリー）

出典：https://www.shinchosha.co.jp/book/110924/

推薦人からの推薦文
建築でないはずなのに建築の話がでてくる

『火の鳥』《本》

推薦人：建築実務者／建築設計

作者：手塚治虫
出版社：学童社
出版年：1954/07～
ジャンル：漫画／SF、推理など

出典：https://tezukaosamu.net/jp/manga/656.html

推薦人のひとこと
みたことのない建物を視覚化していること

おわりに

本研究を通じて、建築分野でない作品から、多くの建築の手がかりを得られることが分かった。これらは、どれも建築を直接的にテーマとした作品からは、十分に得ることができないものだと考えられる。
また、本研究で示した手がかりの6つのカテゴリーは、私が建築関係者の方々へのアンケートの結果を基に分類し、ラベリングしたものである。作品を受け取る人が異なれば、そこから得られる建築の手がかりも異なってくるはず。
ぜひ、この『建築的解釈のすすめ』に載っている作品を読み解いて、自分が受け取ったものと、推薦人の言葉を見比べてみてほしい。きっと自分だけの建築の手がかりが見つかるはず。
本書が、建築学生にとって新たな建築の手がかりを得るための架け橋となり、少しでも本の価値を見出すきっかけになることを願っている。